

## 第25回原子力安全検証委員会における説明資料の配付

2022年12月7日

関西電力株式会社

当社は本日開催の第25回原子力安全検証委員会※において、別添資料に基づいてご説明していますので、お知らせします。

### ※原子力安全検証委員会について

概要：美浜発電所3号機事故を踏まえた再発防止対策について、社外の有識者を主体に独立的な立場からその有効性を検証するとともに、原子力の安全文化醸成活動、さらには、福島第一原子力発電所事故を踏まえた原子力発電の自主的・継続的な安全への取組みについても助言等をいただき、継続的な改善に支えられた安全の確保をより確実なものとするために設置した委員会。

設置日：2005年4月26日

(2012年6月に「原子力保全改革検証委員会」から「原子力安全検証委員会」へ名称変更)

以上

### 【参考資料】

第25回原子力安全検証委員会の開催概要

### 【別添資料】

- ① 2022年度上期 美浜発電所3号機事故の再発防止対策の取組状況について
- ② 「自主的な原子力の安全性向上（ロードマップ）」2022年度上期の進捗状況および2022年度下期の計画について
- ③ 原子力部門安全文化評価の改善状況について
- ④ 原子力安全検証委員からいただいたご意見を踏まえた取組状況について

## 第25回原子力安全検証委員会の開催概要

1. 日 時 2022年12月7日(水) 13時30分～
2. 場 所 関西電力株式会社 本店(大阪市北区中之島)  
 関西電力株式会社 東京支社(千代田区内幸町)  
 ※ビデオ会議システムにより開催
3. メンバー
- |      |                            |             |               |                                 |
|------|----------------------------|-------------|---------------|---------------------------------|
| 委員長  | 【社外】                       | わたなべ<br>渡邊  | かずひろ<br>一弘    | (弁護士)                           |
| 副委員長 | 【社外】                       | やまぐち<br>山口  | あきら<br>彰      | (東京大学名誉教授<br>公益財団法人原子力安全研究協会理事) |
| 委員   | 【社外】                       | あらき<br>荒木   | たかひろ<br>孝治    | (関西大学教授)                        |
| 委員   | 【社外】                       | えんどう<br>遠藤  | のりこ<br>典子     | (慶應義塾大学特任教授)                    |
| 委員   | 【社外】                       | えんどう<br>遠藤  | ふみお<br>富美夫    | (元福井新聞社編集局長)                    |
| 委員   | 【社外】                       | おざわ<br>小澤   | まもる<br>守      | (関西大学名誉教授)                      |
| 委員   | 関西電力送配電<br>株式会社<br>代表取締役社長 | と い<br>土井   | よ し ひ ろ<br>義宏 | [欠席]                            |
| 委員   | 執行役常務                      | い け だ<br>池田 | ま さ あ き<br>雅章 |                                 |

以 上

# 2022年度上期美浜発電所3号機事故の 再発防止対策の取組状況について

2022年12月7日

関西電力株式会社



## ➤ 趣 旨

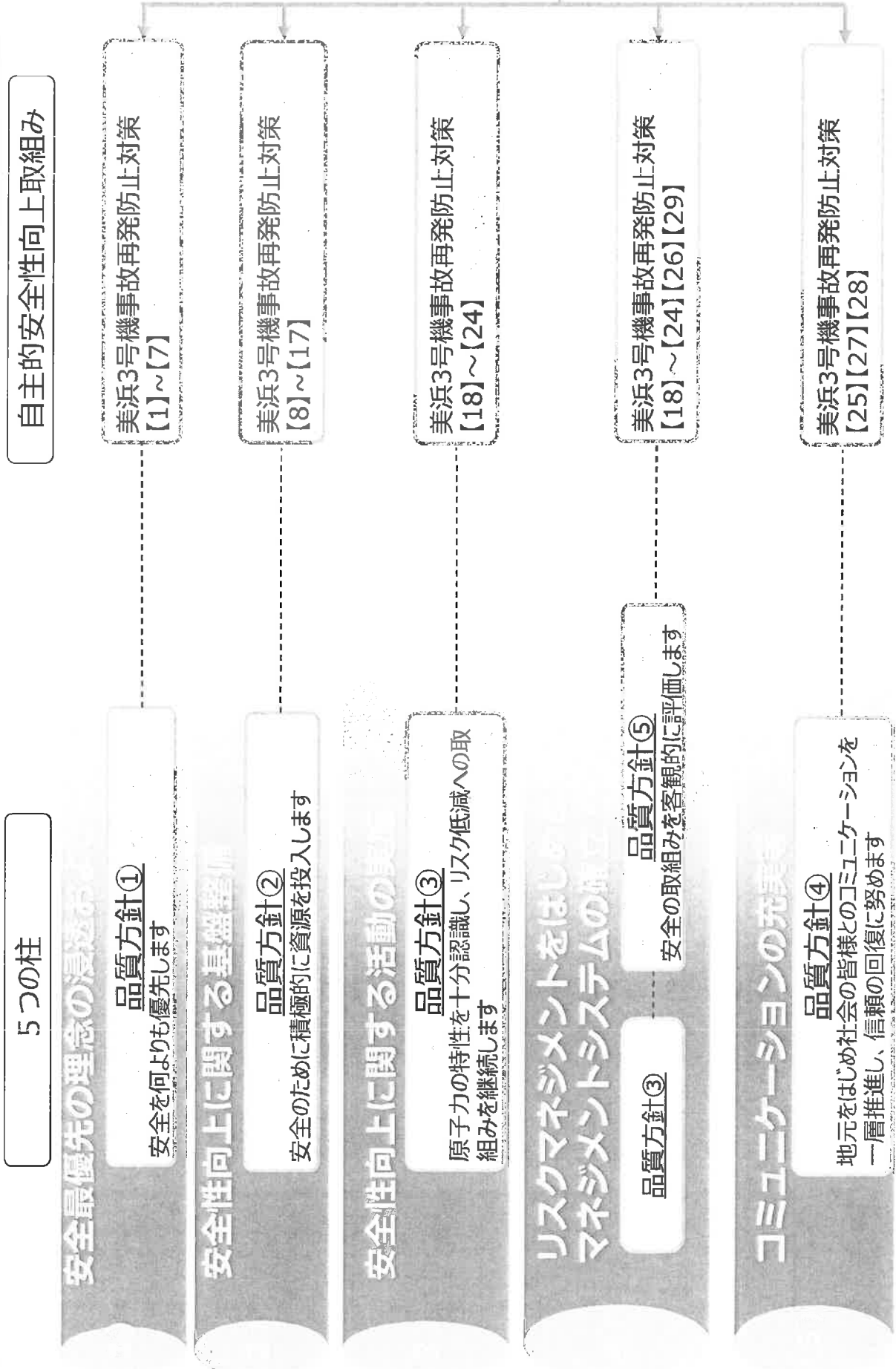
本活動の趣旨は、「美浜発電所3号機事故を真摯に反省し、二度と起こさない」という決意を原点に、原子力安全文化醸成活動、そして福島第一原子力発電所事故を踏まえた原子力発電の自主的・継続的な安全への取り組みについて、社外の見識による独立的な立場から助言いただき、これら継続的な改善に支えられた安全の確保をより確実なものとするところにある。

## ➤ 報告事項

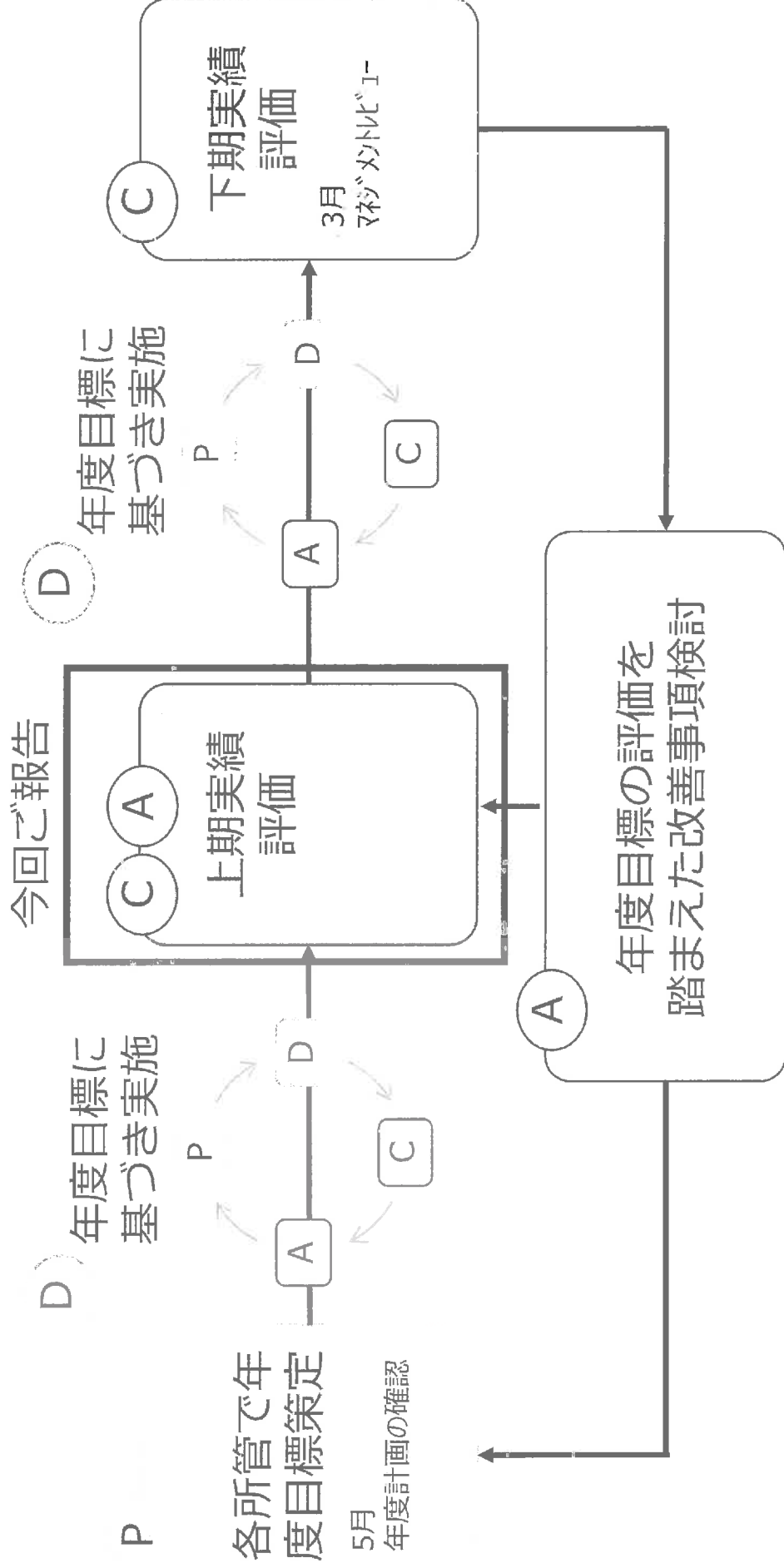
美浜発電所3号機事故再発防止対策が、風化することなく、各所で改善しながら自律的に取り組まれている状況についてご報告する。

# 自主的安全性向上ロードマップと美浜3号機事故再発防止対策の関係

✓ 共通する「安全最優先」の理念の下に取り組んでいた自主的安全性向上ロードマップと美浜3号機事故再発防止対策に関して、2016年度以降これらを整理し、当社の安全と品質の原点である「品質方針」に基づき5つの枠組みの下、両者の統合を図った。



- ✓ 美浜発電所3号機事故再発防止対策は、各年度の初めに年度目標を設定し、半期毎に進捗を確認している。
- ✓ また、年度が終われば、年度目標の評価を踏まえ、次年度の計画を策定することでPDCAを回している。



## <法令手続き不備の再発防止対策について>

目標未達となった項目として、法令手続きの不備があったため、確実に法令手続きを行うためのツールの充実化などにより、同様の事象が発生しないよう、再発防止に取り組んでいる。

## <不具合事象に対する再発防止対策について>

2022年度において複数件のトラブルが発生しており、それぞれ詳細に原因調査を行ったうえ、社内マニュアルや運用、ルールの見直しなどを実施するとともに、それらの周知徹底を図るなど、再発防止に取り組んでいる。

- ・大飯4号機 電動主給水ポンプミニマムフロー配管からの水漏れ
- ・美浜3号機 A封水注入フィルタ蓋フランジ部からの水漏れ
- ・高浜4号機 加圧器逃がし弁の不調

# 自主的な原子力の安全性向上（ロードマップ）

2022年度上期の進捗状況および2022年度下期以降の計画について

2022年11月28日

関西電力株式会社



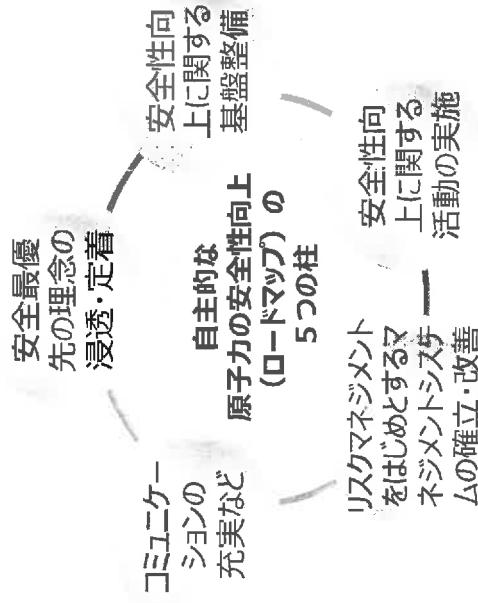
当社は2004年8月の美浜3号機事故以降、「安全最優先」の事業活動を経営の最優先課題として、全社一体となって展開しています。

東京電力福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえ、2014年6月に、自主的な原子力の安全性向上に向けた取り組みをロードマップとしてとりまとめ、以降継続的に推進してまいりました。

また、2017年5月にはロードマップで実現するべき目標（ありたい姿）を設定し、5つの柱に基づき、取り組みを進めております。

今回は、2022年度上期の進捗状況および2022年度下期以降の計画を報告いたします。

今後も規制の枠組みに留まることなく、原子力の安全性向上に全社一体となって、自主的・継続的に取り組んでまいります。



美浜発電所起動工程点検の様子

詳しい情報はこちら

安全性向上に対する当社の姿勢、これからのアクション



## 概要

## Outline

ロードマップの枠組み（5つの柱と取組項目）	…	3
原子力安全のありたい姿と3カ年（2022～2024年度）の取組項目	…	32

## 2022年度上期の進捗状況

## Check

ダイジェスト	…	5
取組み一覧	…	13

## 2022年度下期のロードマップ

## Plan

主な計画	…	23
------	---	----

## 今回の報告書

前回

次回の報告書



Plan  
下期に向けた  
改善事項等  
計画への反映

自主的な原子力の安全性向上に向けた取組みについては、計画（Plan）に基づき実施（Do）し、半期ごとに評価（Check）と改善事項の検討（Act）を行い、次期の計画へ反映することで継続的に改善していきます。

## 2022～2024年度の取組項目



安全最優先の理念の浸透  
および定着

- ◆安全最優先の理念の共有
- ◆原子力安全に対する経営のガバナンス強化
- ◆安全文化の発展



安全性向上に関する基盤整備

- ◆資源の充実
  - 人材育成
  - 体制整備



安全性向上に関する活動の実施

- ◆稼働プラントの自主的安全性向上対策の推進
- ◆事故時対応能力向上のための防災訓練の実施



リスクマネジメントをはじめとする  
マネジメントシステムの確立・改善

- ◆リスクマネジメントシステムの継続的な改善
- ◆リスク管理・評価等のツールの整備・改善
- ◆その他マネジメントシステムの確立・改善
- ◆客観的評価・外部知見等の活用



コミュニケーションの充実等

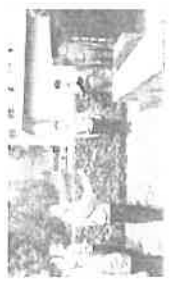




- ◆リスクコミュニケーションの推進

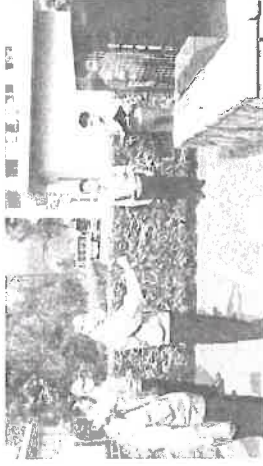


**ダイジェスト** ..... **5**

**取組み一覧** ..... **13**

➤ 2022年度上期については、5つの柱に沿った取り組みを、計画どおり進めています。

5つの柱	2022年度上期の進捗状況	達成度
	<p>✓ 安全最優先の理念の浸透および定着</p> <p>「安全の誓い」の日にあわせた経営層からのメッセージ発信や全社員向けのeラーニングなど、継続的な取り組みにより、安全最優先の理念の定着が進みました。</p>	6
	<p>✓ 安全性向上に関する基盤整備</p> <p>各種教育の実施による知識やスキル向上など、諸課題に対応した人材育成を進めました。</p>	12
	<p>✓ 安全性向上に関する活動の実施</p> <p>外部電源異常検知システムの設置など、稼働プラントの自主的安全性向上対策を着実に実施しました。</p>	7
	<p>✓ リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善</p> <p>労働災害防止に向けた取り組みの推進や、発電所トラブルの再発防止対策の徹底等、リスクマネジメントシステムの改善に向けた取り組みを進めました。協力会社と双方向のコミュニケーションを実施するなど、原子力発電所の安全性を継続的に向上する取り組みを進めました。</p>	8 9 10
	<p>✓ コミュニケーションの充実等</p> <p>新型コロナウイルス感染対策のため見合わせていた原子力発電所見学会を2022年4月から本格的に再開するなど、双方向のコミュニケーションを進めました。</p>	11



石碑前での安全の誓い（上）と  
森社長から全社員に向けてのビデオメッセージ（下）

事故の反省と教訓を深く心にきざみ、安全最優先に  
取り組むことを継承しています。

- 美浜発電所3号機事故が発生した8月9日を「安全の誓い」の日と定め、すべての事業活動を安全最優先で進めることをあらためて誓うこととしています。
- 福島第一原子力発電所の事故も踏まえ、すべての従業員が共有すべき原子力安全に係わる理念として社達「原子力発電の安全性向上への決意」（以下、「決意」）を定め、浸透を図っています。
- 8月9日、社長から全社員に向けて、メールと社内テレビ、ビデオメッセージにより、安全最優先のメッセージを発信しました。
- 全社員を対象にeラーニングを実施するなど、「決意」の理解浸透を目的とした活動を実施しました。
- 社達「原子力発電の安全性向上への決意」は社員への高い浸透度を維持しており、安全最優先の理念の定着につなげることができました。

【答えは③です。】  
 (A:常備 B:地位や立場 C:自由闊達 D:公正 E:声 F:事例や知見)  
 「決意」には、安全文化を高めるために、常日頃から実践すべきことと例え問題5項目として具体的に記載されています。一人ひとりがリスクを少しずつでも下げるために学び、考え、行動しましょう。

- 問題5 実践**
- 社内のルールや常識であっても、繰り返し問い直すこと
  - 地位や立場を超えて、多様な意見を出し合い、自由闊達に議論すること
  - 安全上の懸念が提起されることを促し、それを公正に扱うこと
  - 立地地域をはじめ社会のみならずの声に耳を傾け、目を向けること
  - 国内外の事例や知見を積極的に学ぶこと

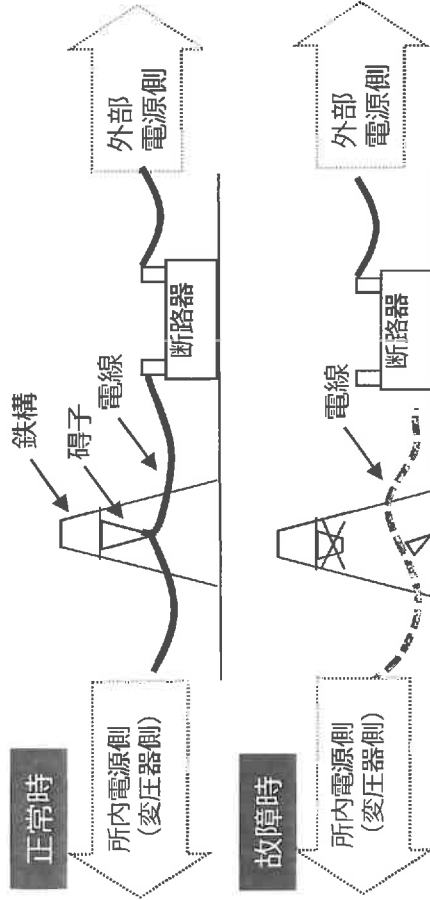
「決意」のeラーニング

詳しい情報はこちら

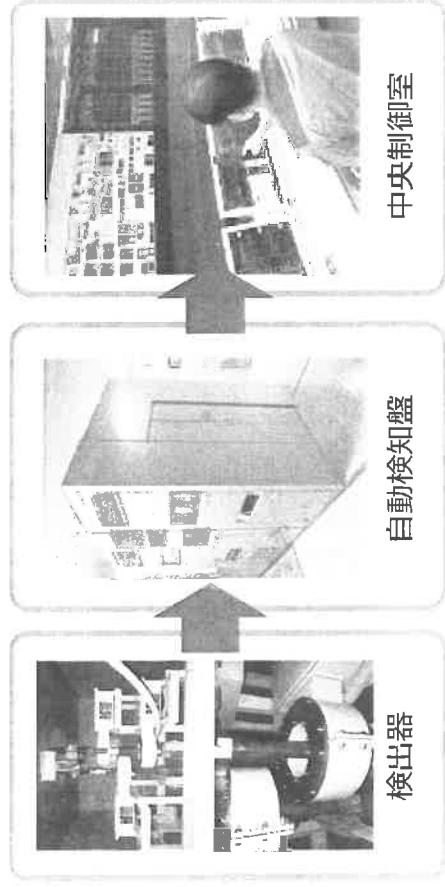


「決意」の制定

今後に向けて  
 美浜発電所3号機事故を経験していない世代が増加する中、事故の反省と教訓を風化させることなく、安全最優先の理念の共有に努めてまいります。



米国Byron2号機のトラブルのイメージ図



外部電源異常検知システムによる検知のしくみ  
(3相交流電源のうち1相の接続が切れた際に中央制御室に警報を発信)

詳しい情報はこちら



外部電源異常検知システム

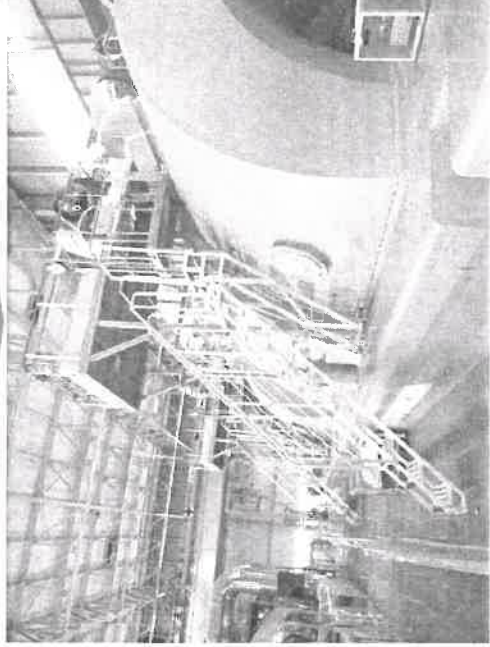
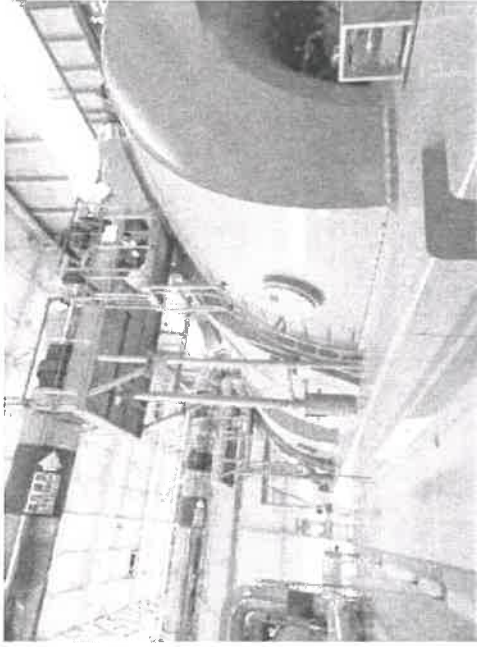
- 2012年に米国の原子力発電所で、外部電源を受電するための電線の碍子破損が発端となり、原子炉の安全停止に必要な機器が次々に停止するトラブル<sup>※1</sup>が発生しました。
- これに対し、新規制基準で求められる以上の対策として、原因となった事象<sup>※2</sup>を自動検知できるシステムを、他電力会社や複数メーカーと協働で開発しました。

- 開発後、国内で初めて高浜発電所に同システムを設置し、2021年3月から1年間効果を検証しました。
- 検証試験で運用に問題がないことを確認したため、2022年4月に本格運用を開始しました。
- 同システムにより、同事象を即時に確実に検出することが可能となり、安全性の向上につながりました。

※1：電線を吊り下げていた碍子が破損し、所内電源側の電線が落下。それにより、非常時に用いる機器への電力供給が正常に行えず、次々停止した。当時の検知システムでは本事象を検出できなかった。  
 ※2：外部の送電線から発電所に受電している3相交流電源のうち1相の接続が切れ、正常な交流電力を受電できなくなる事象。

今後に  
向けて

美浜発電所・大飯発電所においても、同種のリスクが認められる箇所に、順次システムを設置してまいります。



安全パトロールの気付きを踏まえた設備対策例  
転落防止のため、手すり付き階段を設置

- ・ 労働災害の撲滅に向けて、リスクを低減させるため、危険箇所や危険作業の見直し、設備的な安全対策、作業管理面・教育訓練、個人用防保護具の使用といった4つの視点から、検討を行っています。

#### 対策

- ・ 安全パトロールで抽出した危険箇所に対して、4つの視点から評価を実施し、リスク低減措置について検討しました。  
(事例) タービン上部での作業時、モンキーラップにて昇降していましたが、転落の危険性があることから、手すり付き昇降階段を設置することとしました。
- ・ 事象ごとのリスク評価及びそれに応じた対策により、高所からの転落リスク等、作業現場の潜在リスクを低減することができました。

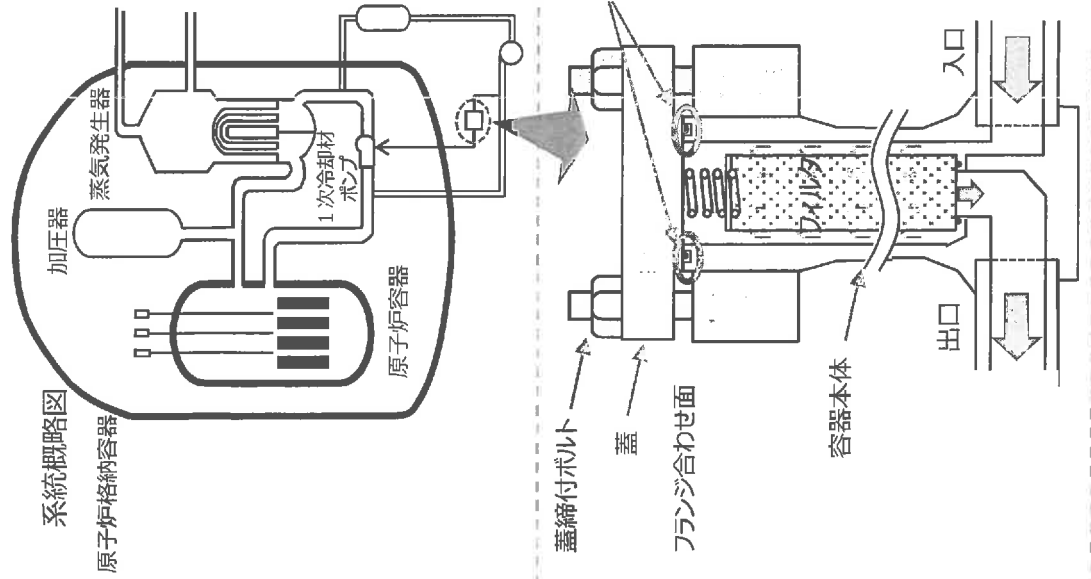
#### 今後に 向けて

協力会社と連携し、現場の潜在リスクを抽出する仕組みを充実するとともに、設備対策も含め多角的に施策を検討することで、効果的なリスクマネジメントに努めてまいります。



## リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善

### ◆リスクマネジメントシステムの継続的な改善



水漏れ箇所（封水注入フィルタ）断面図

詳しい情報はこちら

事象の概要



今後に向けて

定期検査前のルール遵守等の教育、作業計画書読み合わせ時の作業機器の教育、協力会社社員との対話を通じた現場力向上教育を進めてまいります。

- 美浜発電所3号機の定期検査中、放射能を含む水が流れるシステムに設置されたフィルタのフランジ部から水の漏洩が発生しました。
- 調査の結果、フィルタを締め付けるフランジ部のボルトを、本来のトルク値より低い値で締めつけていたことが判明しました。
- トルク値が低かった原因は、協力会社の作業員が、トルク値の判定基準を、本来引用すべき「工事計画書」に記載されている値ではなく、作業員のパソコンに保存されていた誤った値を引用したことによるものでした。
- 対策として、現場点検を行い、同様の事象がないかを確認すると共に、ルール遵守等の教育の徹底、書類に記載されている判定基準等の確認の強化を行いました。
- 判定基準等の確認の強化などの対策を実施することにより、同種事象の発生防止につながると期待されます。

## リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善

### ◆ 客観的評価・外部知見等の活用



コミュニケーションの様子（大飯発電所）

- ・ 美浜発電所3号機事故の再発防止の取組みとして、原子力発電所の安全性の継続的な向上のために、協力会社と双方向のコミュニケーションを実施し、協力会社とのパートナーシップの構築と、連携の強化を図っています。

#### ※ 発言

- ・ 9/30、大飯発電所、高浜発電所にて意見交換会を実施しました。  
（参加者）協力会社：計18名  
当社：発電所・事業本部・本店幹部
- ・ 参加者からは、作業現場の安全や、運用に関する質問・要望等のお声をいただきました。

#### ※ 発言

- ・ 現場の生の声から運用・安全面での改善への気付きを得ることができたとともに、協力会社とのパートナーシップの構築につなげることができました。

### ご意見の例（作業現場の安全）

- （大飯）
- ・ 管理区域内の足場作業中に安全靴が脱げた場合に不安があるため、共用ではなく専用の安全靴を配備してほしい。
- （高浜）
- ・ 点検用のグレーチング架台の階段幅が狭く、悪天候の時には危険を感じる箇所がある。

#### 今後に向けて

いただいたご意見については、担当箇所であらためて内容を確認の上、状況や対応方針等について丁寧に回答してまいります。



▲高浜発電所 見学会の様子 ▲見学設備の例（放水口側防潮堤）

- 原子力発電に対する疑問・不安に向き合うコミュニケーション活動を展開しています。
- 新型コロナウイルス感染対策のため見合わせていた原子力発電所見学会を、2022年4月から本格的に再開しました。

設備の維持管理に関する取組み例  
(美浜3号機、高浜1、2号機)

■大型機器等の取替え（予防保全）

- ・蒸気発生器、高圧給水加熱器の取替え
- ・配管等の取替え

■40年以降運転に向けた特別点検（規制対応）

- ・原子炉容器  
⇒超音波や電流を使って「傷」がないことを確認
- ・原子炉格納容器  
⇒表面を目視で念入りに確認し、「塗装のはがれ」や「腐食」がないことを確認



▲蒸気発生器の取替え

- バスで発電所構内をめぐり、安全性向上対策や、40年以降運転のための設備の維持管理等についてご説明し、参加者の疑問や不安のお声に丁寧にお答えしました。
- 参加者からは「原子力発電所のリスク対策の重要性を感じた」「しつかりと発電所の安全性を知ることができた」などのお声をいただきました。

- 実際の設備を見ていただくことで、当社原子力発電所の安全性向上の取組みについて、ご理解を深めていただくことができました。

詳しい情報はこちら



YouTube  
安全向上対策工事



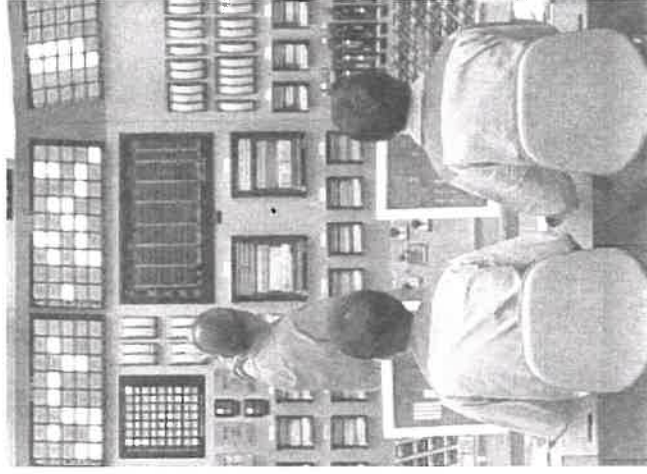
YouTube  
40年以降運転の取組み  
（高経年化対策）

今後に  
向けて

※ 原子力に係るリスク認識などを共有し、頂いたご意見を事業運営に反映する取組み。

引き続き、安全性向上対策や、40年以降運転のための設備の維持管理等をわかりやすくお伝えするなど、社会の皆さまの疑問・不安に向き合う双方向コミュニケーションを展開してまいります。

「原子力安全を支える人材を計画的に育成していく」



運転シミュレータを用いた研修風景



試験を想定した模擬口頭試験の風景

- 原子力発電所では、原子炉の運転に関して保安監督を行う「原子炉主任技術者」を国家資格取得者から選任することが、法律で定められています。
- 原子炉主任技術者には、原子力発電への高度な理解が求められており、計画的な育成支援を実施しています。
- 模擬口頭試験等の論理性を養う研修や、事故時のプラント挙動の理解を深めるために、運転シミュレータを活用し、資格保有者による解説を行う研修を実施しました。
- 継続的な育成支援により、法令必要人数に対する国家資格保有者数の維持につなげています。

今後に  
向けて

資格取得に向けた効果的な支援等を通じて、原子力安全システムを俯瞰する人材の育成に取り組んでまいります。

## 1. 安全最優先の理念の浸透および定着 (1/2)

	主な進捗状況 (2022年度上期)
◆安全最優先の理念の共有	<p>＜経営層による安全最優先のメッセージの発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「安全の誓い」の日 (8/9) にあたり、全社員へのメール配信、社内テレビで安全性向上の取組みを推進する旨の社長メッセージを発信。 ⇒P6</li> </ul> <p>＜社達「原子力発電の安全性向上への決意」(以下、「決意」) の浸透活動の総括と事例の共有及び各部門取組みサポート＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 2021年度下期の各部門の浸透活動実施状況および事例を全社で共有。</li> </ul> <p>＜「決意」に関する教育内容の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● eラーニングについて、受講後アンケートをベースに、受講者の関心や理解が深まるよう改善の上実施 (7月～8月)。⇒P6</li> </ul> <p>＜「決意」の浸透状況の確認・分析＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「決意」に関する社員アンケートの実施結果から浸透度が昨年と同等の高いレベルを維持していることを確認。 【「決意」の浸透度※の実績推移：2.34 (2020年度) →2.33 (2021年度) →2.35 (2022年度)】 ※ 社員アンケートを実施し、「決意」の理解レベルに応じてポイントを設定 (0～3ポイント。満点が3ポイント) の上、回答者の比率により加重平均したもの。</li> </ul>
基盤となる美浜3号機事故再発防止対策としての取組み	<p>＜経営計画における「安全最優先」の明確化＞ &lt;経営層による現場第一線への経営計画の浸透＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営層が発電所等の現場第一線職員の社員との対話を通じ、安全最優先を浸透。</li> </ul> <p>＜運転中プラント立入制限の継続実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運転中プラントの立入制限に関する社内ルールを適切に運用。</li> </ul> <p>＜労働安全衛生マネジメントシステムの運用継続実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 労働安全連絡会にて、労働安全衛生マネジメントシステムが確実に運用されていることを確認。</li> </ul>
◆原子力安全に対する経営のガバナンス強化	<p>＜原子力安全推進委員会の活動計画の策定および議論の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 原子力をめぐる社内外の状況を踏まえ、全社を挙げて原子力安全を推進する「原子力安全推進委員会」の2022年度活動計画を策定。</li> <li>● 上期に3回開催。各課題について、社内全部門の広範な視点から議論を実施。</li> </ul> <p>＜原子力事業本部運営計画策定についての対話＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 発電所において、原子力事業本部の幹部と発電所所員との膝詰めでの対話を実施 (2020年度より「膝詰め対話」を充実、拡大し、「本部長コミュニケーション」として実施) (美浜:9/16)。他部門の役員も、コミュニケーションに参加。</li> <li>● 経営層から安全最優先の理念等を伝えるとともに所員の意見を吸い上げ、原子力の事業運営に反映。</li> </ul>

## 1. 安全最優先の理念の浸透および定着 (2/2)

主な進捗状況 (2022年度上期)	
<p>◆安全文化の発展</p>	<p>＜安全文化重点施策の立案、実施、評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 原子力事業本部部長以下で、原子力部門の安全文化に関する会議体にて2022年度の重点施策の実施計画を策定し、以下の施策に取り組み中。</li> </ul> <p>【2022年度重点施策】</p> <p>「経営層による課題解決の輪の構築」の実施</p> <p>あらゆる階層で、今以上に自発的に考え、行動する力を高める組織文化を醸成するため、経営層は、ミドル層を中心に、課題解決のための支援を実施し、必要な改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営層は、自らが関与する既存の会議体・対話活動において、各所属のミドル層からの意見・課題を積極的にくみとる。</li> <li>・組織の長は、組織がよりよく活動できる仕組み・風土を作り上げるため、新たな課題解決に向けた意見・課題提起を促進・支援していくことを宣言として発信し、実行することで必要な改善を図る。</li> </ul>
<p>基盤となる美浜3号機事故再発防止対策としての取組み</p>	<p>＜「安全の誓い」の日の取組みの継続実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 美浜3号機事故の反省と教訓の風化防止のため、黙祷、コンダクトカードの確認、社長メッセージ、社内新聞、社内ビデオでの教訓ビデオ視聴など、各種取組みを前年度の実施結果を反映し計画通り実施。</li> </ul>
実績評価 (2022年度上期) と今後の方向性	
<p>実績評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 安全最優先の理念の共有</li> <li>◆ 原子力安全に対する経営のガバナンス強化</li> <li>◆ 安全文化の発展</li> </ul> <p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営層からの「安全の誓い」の日にあわせた経営層からのメッセージ発信や全社員向けのeラーニングなど、継続的な取組みにより、安全最優先の理念の定着が進みました。</li> <li>・原子力をめぐる社内外の状況を踏まえた課題設定による活動計画の下、全ての部門の役員等が委員となっている「原子力安全推進委員会」での審議において、原子力部門に対する「牽制機能」、「牽制機能」を発揮することにより、経営全体として原子力安全の向上のための取組みを進めました。</li> <li>・2021年度評価結果から抽出した安全文化発展のための重点施策を立案し、展開することにより、安全文化の向上に向けた取組みを進めました。</li> <li>・引き続き、安全最優先の理念の浸透および定着に向けた活動を展開してまいります。</li> </ul>

## 2.安全性向上に関する基盤整備 (1/2)

主な進捗状況 (2022年度上期)	
<p>◆資源の充実 (人材育成、体制整備)</p>	<p>＜人材育成計画の確実な遂行＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●人材育成計画に基づき各種専門研修を実施。</li> <li>●原子炉主任技術者の計画的な育成に向け、運転シミュレータを活用し、資格保有者による解説を行う研修を実施。⇒P12</li> <li>●電力中央研究所リスク研究センターが主催する研修（リスク専門家コース（3名）、発電所のRIDM※導入・推進責任者向け研修（1名））に参加。</li> <li>●PRAの知識を習得した実務者の育成のため、電力中央研究所原子力リスク研究センター（NRRRC）が主催する「リスク専門家コース」に参加予定だったが、今年度は新型コロナウイルス感染症防止の観点から開催中止。 ※ Risk Informed Decision Makingの略称で、リスク情報を活用した意思決定。</li> </ul> <p>＜技術力の維持・向上に向けた力量管理の運用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●技術力の維持・向上に向け、職能ごとに整理した力量管理を踏まえた育成計画を推進。</li> </ul> <p>＜7基運転・4基廃止措置のプラントを安全・安定に運営するための体制構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●7基運転・4基廃止措置のプラントを安全・安定に運営するための持続可能な体制構築に向け、必要な組織改正（廃止措置プラントにおける体制変更）を実施。</li> </ul>
<p>基盤となる美浜3号機事故再発防止対策としての取組み</p>	<p>＜設備信頼性、労働安全の観点からの投資の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2023年度予算編成において、安全確保のために必要な工事予算を確保。原子力事業本部内で計画工事の内容・範囲、予算金額を精査。</li> </ul> <p>＜法令、品質保証、保全指針などの教育の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●美浜発電所3号機事故再発防止対策に係る2次系配管肉厚管理の重要性に関する教育などを計画的に実施。</li> </ul>

## 2.安全性向上に関する基盤整備 (2/2)

	実績評価 (2022年度上期) と今後の方向性
実績評価 ◆ 資源の充実  今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種教育の実施による知識やスキル向上に加え、確率的リスク評価を現場で活用するための知識を高めるなど、諸課題に対応した人材育成を進めました。</li> <li>・廃止措置プラントにおける体制変更に係る組織改正を実施するなど、7基運転・4基廃止措置のプラントを安全・安定に運営するための体制構築を進めました。</li> <li>・引き続き「原子力安全を支える人材」の育成と体制整備に努めてまいります。</li> </ul>



### 3. 安全性向上に関する活動の実施 (1/1)

主な進捗状況 (2022年度上期)	
<p>◆稼働プラントの自主的安全性向上対策の推進</p> <p>基盤となる美浜3号機事故再発防止対策としての取組み</p>	<p>＜稼働プラントの自主的安全性向上対策の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1相開放故障（電気事故）において、検知性の改善が必要な変圧器を対象に、機械的検知可能な検知システムを自主的に設置、4月より本格運用開始（高浜発電所予備変圧器）。⇒P7</li> <li>● 余熱除去システムの信頼性向上の観点より、プラント起動時に化学体積制御システムを用いた一次冷却材システムの圧力調整が実施できるよう、当該システムの抽出水オリフィスを口径の大きいものに取り替え実施（高浜3号機）。</li> </ul> <p>＜2次系配管を含め、施設管理方針に基づく確実な保守管理の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事故の直接的原因であった2次系配管肉厚管理など、施設管理方針に基づいた管理を確実に実施。</li> <li>● 各種コミュニケーションにおいて、施設管理方針や考え方が浸透していることを確認。</li> </ul>
<p>◆事故時対応能力向上のための防災訓練の実施</p>	<p>＜教育・訓練の計画的実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社内ルールに基づき、各種教育・訓練を実施。 【訓練実績 延べ約500回、教育実績 延べ約1,400人（2022年度上期実績）】</li> </ul> <p>＜防災訓練中期計画に基づく防災訓練の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨年度の訓練課題を踏まえ、中期計画を改訂（8月）。</li> <li>● 中期計画に基づき、高浜原子力防災訓練（8/30）を実施。</li> <li>● 原子力規制庁緊急時対応センターへの説明者の育成のため、個別要素訓練を計10回実施。</li> </ul>
実績評価 (2022年度上期) と今後の方向性	
<p>実績評価</p> <p>◆稼働プラントの自主的安全性向上対策の推進</p> <p>◆事故時対応能力向上のための防災訓練の実施</p> <p>今後の方向性</p>	<p>・1相開放故障検知システムの設置や、化学体積制御システムの抽出水オリフィスの取り替えなど、稼働プラントの自主的安全性向上対策を着実に実施しました。</p> <p>・事故時対応能力の維持・向上のための教育・訓練や、昨年度の訓練課題を踏まえた訓練計画策定・実施等を通じて、災害時の対応能力を向上させました。</p> <p>・引き続き、稼働プラント安全・安定運転につながる自主的安全性向上対策や、緊急事態の対応体制の継続的な改善に積極的に取り組んでまいります。</p>

## 4. リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善 (1/3)

<b>主な進捗状況 (2022年度上期)</b>	
<p>◆<b>リスクマネジメントシステムの継続的な改善</b></p>	<p>＜<b>労働災害防止に向けた取組みの着実な推進 (クレーン倒壊事故対策含む)</b>&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 過去の災害の傾向分析を踏まえた基本動作遵守、新規入構者対応を重視した取組みを継続。</li> <li>● <u>リスクマネジメントにおけるリスク低減措置や災害再発防止対策の策定において、危険箇所や危険作業の見直し・除去といった本質安全化ならびに工学的対策、管理的対策、個人用防保護具の使用といった4つの視点で多角的に検討を実施。</u>⇒P8</li> <li>● クレーン倒壊事故再発防止対策を確実に実施するとともに、対策の定着状況を確認。</li> </ul> <p>＜<b>国内外の不具合情報を活用した未然防止処置※1の実施</b>&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内外のリスク情報を収集し、当社への影響について検討を行い、必要に応じて対策を講じるなど、リスクの顕在化を防止。毎月行われる社内会議で未然防止処置の進捗状況を報告 (上期中に計6回実施)。</li> <li>● ※1 国内外のトラブルなどリスク情報について入手次第、各所管箇所が予防処置として当社のリスクマネジメントに反映するかどうかの検討を行うもの。</li> <li>● 美浜発電所3号機封水注入フィルターランジ部水漏れ事象の対策として、現場点検を行い同様の事象がないかを確認するとともに、ルール遵守等の教育の徹底、書類に記載されている判定基準等の確認の強化を実施。⇒P9</li> </ul>
<p>◆<b>リスク管理・評価等のツールの整備・改善</b></p>	<p>＜<b>PRA※2モデルの変更管理</b>&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大飯3, 4号機PRAモデルについて、特定重大事故等対処施設等のプラント情報や技術知見等の反映を実施中。</li> <li>● 美浜3号機内の事象出力時PRAモデルは、プラント情報、技術知見を反映作業を実施中。</li> <li>● ※2 Probabilistic Risk Assessmentの略。確率的リスク評価。原子力施設等で発生する可能性のある事象が進展し炉心損傷等の事故に至るシナリオを、体系的な方法で網羅的に展開し、炉心損傷等の確率などを定量的に評価する手法。</li> </ul> <p>＜<b>業務におけるリスク情報の活用</b>&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 再稼働済の全プラントにおいて、設備改造前、手順変更前のリスク評価の運用を継続。</li> <li>● PRAによるリスク評価が必要な発電所の問題について、是正処置プログラム (CAP) に基づき重要度評価を実施。</li> <li>● 原子力エネルギー協議会 (ATENA) の作業部会に参加し、リスク情報を活用した運転上の制限逸脱時に要求される措置の完了時間の見直しの方法を定めたガイドラインの発行に協力。</li> </ul> <p>＜<b>安全性向上評価※3届出におけるPRA、ストレステスト※4評価</b>&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 下期に届出予定の高浜3号機第4回、大飯4号機第3回安全性向上評価におけるPRA、ストレステストを計画通り実施中。また、美浜3号機第1回安全性向上評価におけるPRA、ストレステストを実施中。</li> <li>● ※3 事業者において、原子力発電所の安全性について評価し、自主的な安全性向上に向けた取り組みを、継続的に講じていくことを目的としたもの。</li> <li>● ※4 原子力発電所が想定を超える地震や津波などに襲われた場合に大きく広がった時に、安全上重要な施設や機器などがどの程度まで耐えられるのかを調べたうえで、発電所の総合的な安全裕度を評価するもの。</li> </ul>

## 4. リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善 (2/3)

<b>主な進捗状況 (2022年度上期)</b>	
<p>◆<b>その他マネジメントシステムの確立・改善</b></p>	<p>＜原子力事業本部による発電所の安全に関するパフォーマンスの定量的評価 (管理指標) や現場観察による評価＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 発電所のパフォーマンスを管理する指標 (PI) により、発電所改善活動への働きかけを継続的に実施。</li> <li>● 事業本部管理職層による発電所の現場観察 (MO) を継続的に実施。</li> <li>● PIおよびMOの結果を、四半期毎に部門内報告。事業本部オーバーサイトレビュー会議 (10月) に付議予定。</li> </ul>
<p>◆<b>客観的評価・外部知見等の活用</b></p>	<p>＜他電力の原子力発電に関する知見を活用した客観的な観察・評価 (独立オーバーサイト※1活動) ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中国電力島根原子力発電所 (4月)、北海道電力本店 (9月) のオーバーサイト活動にレギュラーとして参加。</li> <li>● 独立オーバーサイト活動で得られた「提言・気づき事項」に対するアクションプランについて、定期的に状況の把握・フォローを実施。 ※1 オーバーサイト：発電所の安全に係る取組状況を観察・評価し、改善につなげる取組み。</li> </ul> <p>＜海外電気事業者との情報交換の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● EDF (フランス) と、実務者レベルの情報交換を実施。</li> </ul> <p>＜WANO※2やJANSI※3ピアレビューの着実な受入れおよび改善活動の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 美浜発電所において、JANSIによるピアレビューを受け入れ (4月)。推奨事項に対するアクションプランを策定中。</li> <li>● 過去の指摘に対する現在のアクションプランが計画的に実施されていることを確認。 ※2 World Association of Nuclear Operatorsの略称で、世界原子力発電事業者協会。 ※3 Japan Nuclear Safety Instituteの略称で、原子力安全推進協会。</li> </ul> <p>＜学協会との連携およびメーカー、協力会社、PWR電力との確実な情報共有＞ &lt;業務プロセス監査の継続実施および改善＞ &lt;原子力安全検証委員会による安全への取組みの検証＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 発電所の各層におけるメーカー、協力会社との対話を実施し、パートナーシップを強化。PWR事業者連絡会を実施。メーカー、協力会社、PWR各社間で安全性向上に向けた各種情報を共有。⇒P10</li> <li>● 協力会社に対する業務プロセス監査を、計画通り実施。</li> <li>● 第24回原子力安全検証委員会を開催 (6月) し、美浜3号機事故再発防止対策について、安全への取組状況を検証。</li> </ul>

## 4. リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善 (3/3)

実績評価 (2022年度上期) と今後の方向性	
<p>実績評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ リスクマネジメントシステムの継続的な改善</li> <li>◆ リスク管理・評価等のツールの整備・改善</li> <li>◆ その他マネジメントシステムの確立・改善</li> <li>◆ 客観的評価・外部知見等の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクアセスメントにおける多角的な検討による労働災害防止に向けた取組みの推進や、国内外の不具合情報を活用した未然防止処置の実施など、リスクマネジメントシステムの改善に向けた取組みを進めました。</li> <li>・再稼動済の全プラントにおいて、設備改造前、手順変更前のリスク評価の際に、リスク評価ツールを活用する運用を展開するなど、リスク低減の取組みを進めました。</li> <li>・原子力事業本部による発電所の安全に関するパフォーマンスの定量的評価（管理指標）や現場観察による評価を行い、発電所のパフォーマンスの改善につなげる取組みを進めました。</li> <li>・JANSIピアレビューの受け入れ等により、発電所の安全に係る取組状況の第三者による観察・評価を行い、改善につなげる取組みを進めました。</li> <li>・引き続き、リスクマネジメントシステムの改善、リスク管理・評価ツールの活用、客観的評価・外部知見等を活用したマネジメントシステムの運用・改善を進めてまいります。</li> </ul>
<p>今後の方向性</p>	

## 5.コミュニケーションの充実等（1/1）

主な進捗状況（2022年度上期）	
<p>◆リスクコミュニケーションの推進</p>	<p>＜リスクコミュニケーションの継続的実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リスクコミュニケーション活動で得たご意見と、それらご意見の当社リスクマネジメントへの反映状況を、原子力事業本部の幹部会議に定期的に報告（2回報告）。</li> <li>● 新型コロナウイルス感染対策のため縮小していた原子力発電所見学会を、4月から本格的に再開。⇒P11</li> </ul> <p>＜社外知見の収集＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電力中央研究所原子力リスク研究センター（NRRC）のワーキングに参加して情報収集を実施。</li> </ul>
<p>基盤となる美浜3号機事故再発防止対策としての取組み</p>	<p>＜地元とのコミュニケーションの充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● オピニオンリーダー訪問、説明会、各戸訪問を精力的に展開。美浜3号機事故再発防止対策の継続実施や、原子力の主要案件についてコミュニケーションを行い、理解醸成活動を実施。</li> </ul>
実績評価（2022年度上期）と今後の方向性	
<p>実績評価</p> <p>◆リスクコミュニケーションの推進</p> <p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大のため縮小していた原子力発電所見学会を4月から再開するなど、双方向のコミュニケーションを進めることができました。</li> <li>・引き続き、立地地域をはじめ社会の皆さまとのコミュニケーションを推進してまいります。</li> </ul>

# 2022年度下期以降のロードマップ

## 主な計画

..... 23

# 1. 安全最優先の理念の浸透および定着

- 安全最優先の理念の共有  
経営層の安全最優先の理念に対する明確なコミットメントのもと、経営層が発電所等を訪問するコミュニケーションなどの機会を通じ、所員や協力会社とのコミュニケーション活動を行うとともに、様々な機会においてメッセージ発信を行うことで、安全最優先の理念の浸透に資する活動を行います。また、社達「原子力発電の安全性向上への決意」に係るeラーニングなどの実施など、日々の取り組みへの実践につながる活動を継続していきます。
- 原子力安全に対する経営のガバナンス強化  
全ての部門の役員等が委員となっている「原子力安全推進委員会」における多様な安全活動に係る審議に加え、委員会の下部組織である原子力リスクレビュー部会において、原子力以外の技術部門の技術的な観点からも審議を行うなど、経営全体として原子力安全の向上のための取り組みを行っています。
- 安全文化の発展  
組織の状態について安全文化評価を行い、抽出された課題への重点施策を立案、展開するなど、安全文化を高める取り組みを行っています。

## 安全最優先の理念の共有

【目標】 継続的な浸透活動の展開によって、安全最優先の理念に対する理解が深まっている。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 経営層による安全最優先のメッセージの発信</li> <li>➤ 「決意」に関する教育内容の充実（eラーニングの活用）</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">内容見直し</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">実施結果分析</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">内容見直し</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">実施結果分析</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">内容見直し</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">実施結果分析</div>
	▼eラーニング実施					
	様々な会議などでの経営層によるメッセージ発信					
	▼eラーニング実施					
	各発電所への役員等によるキャラバン等の実施					
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ (基盤となる美浜3号機事故再発防止対策)</li> <li>➤ 経営層による現場第一線への経営計画の浸透</li> <li>➤ 運転中プラントの立入制限の継続実施</li> <li>➤ 労働安全衛生マネジメントシステムの運用継続実施</li> </ul>	運転中プラント立入制限の継続実施					
	労働安全衛生マネジメントシステムの確実な運用					

# 1. 安全最優先の理念の浸透および定着

## 原子力安全に対する経営のガバナンス強化

【目標】 社達「決意」のもと、原子力部門に対して「支援機能」と「牽制機能」を適切に発揮し、原子力安全を推進している。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
原子力安全推進委員会の活動計画の策定および議論の実施 (基盤となる美浜3号機事故再発防止対策) 原子力事業本部運営計画についての対話	計画策定		評価・計画策定		評価・計画策定	評価
	原子力安全推進委員会の開催による支援・牽制の実施 (事業本部での委員会実施も含む)					
					原子力事業本部幹部と現場第一線との膝詰めによる対話の実施	

## 安全文化の発展

【目標】 前年度の評価結果において抽出した課題の解決に取り組むとともに、安全文化の評価を行い、安全文化の向上が図られている。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
安全文化評価の実施 (重点施策の立案、実施、評価を含む)	計画の策定	評価	計画の策定	評価	計画の策定	評価
	重点施策の実施					
安全文化に係るeラーニングの実施 (基盤となる美浜3号機事故再発防止対策)	内容検討	実施	内容検討	実施	内容検討	実施
	「安全の誓い」の日の取組み					



## 2.安全性向上に関する基盤整備

- **資源の充実 (人材育成)**  
安全・安定運転のために必要な技術要員の人材育成や確実な技術伝承に向けて、人材育成計画の確実な遂行や、力量管理の運用を進めていきます。また、原子力安全システムを俯瞰する人材の育成に向けて、育成キャリアパスの継続的な検討と配置を実施します。
- **資源の充実 (体制整備)**  
7基稼働・4基廃止措置のプラントを安全・安定に運営するための持続可能な体制構築や社会全体のゼロカーボン化に貢献できる体制構築を進めていきます。

### 資源の充実 (人材育成・体制整備)

【目標】 7基運転・4基廃止措置の体制下で自主的・継続的に安全性を高めつつ、社会全体のゼロカーボン化に貢献できる体制構築が進められている。  
事故時に所長をサブポートする参謀機能を担う原子力安全システムを俯瞰する人材が継続的に育成されている。  
確実な技術伝承や、安全・安定運転のために必要な技術要員の人材育成計画の確実な遂行ができています。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
▶ 人材育成計画の確実な遂行				人材育成計画に基づく教育の計画的実施 (リスク情報活用に関する教育など)		
▶ 技術力の維持・向上に向けた力量管理の運用				力量管理の運用		
▶ 安全俯瞰人材の育成に向けた育成キャリアパスの継続的な検討と配置の実施				人事配置の検討・実施		
▶ 7基運転・4基廃止措置のプラントを安全・安定に運営するための体制構築 (基盤となる美浜3号機事故再発防止対策)						将来を見据えた組織・要員体制の検討
▶ 設備信頼性、労働安全の観点からの投資の充実						設備信頼性、労働安全からの投資の充実
▶ 法令、品質保証、保全指針などの教育の充実						法令、品質保証、保全指針などの教育の充実

### 3. 安全性向上に関する活動の実施

<p>○稼働プラントの自主的安全性向上対策の推進</p>	<p>稼働プラントの安全・安定運転に万全を期すため、国内外の新たな知見を踏まえた原子力の安全性向上に関する活動に取り組んでいきます。</p>
<p>○事故時対応能力向上のための防災訓練の実施</p>	<p>上記の対策に関わらず、原子力事故が発生した場合においても、迅速・的確な事故収束活動により進展・拡大を防ぐとともに、万一事故が進展した場合でも、住民の皆さまが安全に避難できるように、国や自治体、他の電力会社とも連携を図った総合防災訓練や個別の要素訓練を行うなど、事故時の対応能力の向上の取り組みを行っていきます。</p>

#### 稼働プラントの自主的安全性向上対策の推進

【目標】 原子力の安全性向上に関する活動（自主的な取り組み、基盤整備・運用等）に継続的に取り組み、稼働プラントの安全・安定運転に万全を期す。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
<p>▶ 稼働プラントの自主的安全性向上対策の推進 (基盤となる美浜3号機事故再発防止対策)</p>	自主的安全性向上対策の適宜実施					
<p>▶ 2次系配管を含め、施設管理方針に基づく確実な保守管理の実施</p>	2次系配管を含め、施設管理方針に基づく確実な保守管理の実施					

## 3.安全性向上に関する活動の実施

## 事故時対応能力向上のための防災訓練の実施

【目標】事故時対応能力を継続的に維持し、新たな知見を踏まえた更なる能力の向上に取り組んでいる。  
各地域の緊急時対応（広域避難計画）に基づいた協力、支援を迅速かつ的確に実施できるよう継続的な改善に取り組んでいる。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
▶ 教育・訓練の計画的実施 ▶ 防災訓練中期計画に基づく防災訓練の実施（要素訓練の充実含む） ▶ 原子力災害対策の充実に向けた取組みの実施	中期計画の更新 原子力災害対策充実に 取組みの実施および進捗状況と りまとめ	防災訓練の実施・評価 ▼報告 原子力災害対策充実に に向けた当社取組みの実 施および進捗状況と りまとめ	中期計画の更新 原子力災害対策充実に に向けた当社取組みの実 施および進捗状況と りまとめ	防災訓練の実施・評価 ▼報告 原子力災害対策充実に に向けた当社取組みの実 施および進捗状況と りまとめ	中期計画の更新 原子力災害対策充実に に向けた当社取組みの実 施および進捗状況と りまとめ	防災訓練の実施・評価
▶ 自治体と連携した防災訓練の実施			自治体との連携訓練規模などに 応じて訓練実施			
▶ 西日本の電力会社5社による相互協力の確実な実施			他電力（自治体）との連携訓練規模などに 応じて協力の実施			

## 4. リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善

<p>○リスクマネジメントシステムの継続的な改善</p>	<p>国内外のリスク情報を収集し、定期的に当社への影響について検討を行い、必要に応じて対策を講じる未然防止処置のプロセスを通じて、リスク顕在化を防止しています。また、クレーン倒壊事故対策を含め、労働災害防止に向けた取り組みを着実に推進していきます。</p>
<p>○リスク管理・評価等のツールの整備・改善</p>	<p>最新のプラント情報や技術知見を反映したPRA手法の維持管理を実施するとともに、安全性向上評価においてPRA・ストレステストを用いた評価を行い、評価結果をもとに設備・機器等の改良工事や発電所の運用等の見直しを行うなど、PRAを活用してよりリスク低減につなげる取り組みを実践していきます。</p>
<p>○その他マネジメントシステムの確立・改善</p>	<p>原子力事業本部による発電所の安全に関する取り組みのパフォーマンスの定量的な評価（管理指標による評価）や現場観察による評価などのオーバーサイト活動により、業務の改善を図るなど、安全性向上の取り組みを行っていきます。</p>
<p>○客観的評価・外部知見等の活用</p>	<p>他電力等の知見を活用したオーバーサイト活動により、安全性向上の取り組みを進めていきます。また、デュークエナジー社（米国）やフランス電力会社などの海外電気事業者との経営層をはじめとした様々なレベルでの情報交換や、WANOやJANSIといった外部の原子力安全に係る専門組織などの知見を活用しつつ、継続的に安全性向上に取り組んでいきます。</p>

### リスクマネジメントシステムの継続的な改善

【目標】 リスクマネジメントシステムの継続的な改善に取り組み、また、リスク管理レベルを向上し、原子力の安全性向上に資している。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
<p>▶ 労働災害防止に向けた取り組みの着実な推進（クレーン倒壊事故対策含む）</p>	<p>労働災害防止に向けた取り組みの着実な実施</p>	<p>評価 次年度 計画策定</p>	<p>労働災害防止に向けた取り組みの着実な実施</p>	<p>評価 次年度 計画策定</p>	<p>労働災害防止に向けた取り組みの着実な実施</p>	<p>評価 次年度 計画策定</p>
<p>▶ 未然防止処置の仕組みによる水平展開の実施</p>	<p>継続的な運用と運用状況の定期的な確認</p>					

## 4. リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善

## リスク管理・評価等のツールの整備・改善

【目標】各発電所において、リスク情報を活用した継続的な安全性向上活動が定着している。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ PRAモデルの変更管理</li> <li>➢ 業務におけるリスク情報の活用</li> <li>➢ 安全性向上評価届出におけるPRA、ストレステスト評価</li> </ul>			各プラントにおけるPRAモデルの維持・管理			
			各プラントにおけるリスク情報活用の推進			
			各プラントの安全性向上評価届出時期を踏まえた評価の実施			

## その他マネジメントシステムの確立・改善

【目標】発電所の安全に係る取組みのパフォーマンスを評価し、劣化傾向を特定するとともに、必要により発電所への是正を働きかける活動を通じて、継続的に安全性の向上が図られている。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 原子力事業本部による発電所の安全に関するパフォーマンスの定量的評価（管理指標）や現場観察による評価</li> </ul>			管理指標の継続監視			
			現場観察活動の継続実施（管理指標の弱みの評価を含む）			
			発電所のパフォーマンスをレビューする会議体の検討・実施			

## 4. リスクマネジメントをはじめとするマネジメントシステムの確立・改善

## 客観的評価・外部知見等の活用

【目標】 外部の知見を活用し、発電所の安全に係る取組みのパフォーマンスが評価され、発電所の弱みの改善等につながる提言等を得ることで、継続的に安全性の向上が図られる仕組みが整備・運用されている。  
国内外の知見を活用し、原子力発電の安全性向上に継続的に取り組んでいる。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
▶ 他電力の原子力発電に関する知見を活用した客観的な観察・評価（独立オーバーサイト活動）  （基盤となる美浜3号機事故再発防止対策） ▶ 学協会との連携およびメーカ、協力会社等との確実な情報共有 ▶ 原子力安全検証委員会による検証	独立オーバーサイト活動の実施・評価・改善		独立オーバーサイト活動の実施・評価・改善		独立オーバーサイト活動の実施・評価・改善	
	WANO・JANSIピアレビューの受入れ・改善活動の実施					
	学協会との連携およびメーカ、協力会社等との確実な情報共有					
	原子力安全検証委員会における安全の取組みに関する継続的な審議・検証の実施					

### ○リスクコミュニケーションの推進

原子力発電の特性・リスクを十分認識し、立地地域、立地周辺地域、消費地域において、社会の皆さまの疑問・不安に向き合い、共に考えていく姿勢で引き続きコミュニケーションを展開し、頂戴したご意見を当社のリスクマネジメントに活用することで、更なるリスク低減に繋がっていきます。

### リスクコミュニケーションの推進

【目標】ステークホルダーとの「原子力リスク認識の共有」を図るとともに、ステークホルダーからのリスク情報をリスクマネジメントに反映する活動が継続的に行われている。

個別の活動	2022年度		2023年度		2024年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
➤ リスクコミュニケーションの継続的実施						
➤ 社外知見の収集						
(基盤となる美浜3号機事故再発防止対策)						
➤ 地元とのコミュニケーションの充実						

リスク活動の継続的実施、改善  
(40年を超える発電所の運転への対応を含む)

良好事例の共有、勉強会開催

学識経験者との意見交換・NRRRC研究報告会への参加  
電力6社による情報共有会議の実施

地元とのコミュニケーションの充実

ありたい姿

2022～2024年度  
ロードマップの取組項目

5つの柱

「原子力発電の安全性向上への決意」に基づき、継続的・自立的な安全性向上のために必要な仕組みの構築・取組みを推進するとともに、外部の知見等も活用し、確実に改善を図る。

安全最優先の  
理念の浸透  
および定着

経営層の安全最優先の理念に対する明確なコミットメントのもと、全社を挙げた理念等の浸透活動が展開され、原子力事業本部を含む本店と発電所、また当社と協力会社社員との間のコミュニケーションなどを通じて、理念等が現場第一線にまで浸透・定着し、日々の活動において実践されている。

- ◆安全最優先の理念の共有
- ◆原子力安全に対する経営のガバナンス強化
- ◆安全文化の発展

安全性向上に  
関する基盤整備

安全の基礎となる安全を支える人材を継続的に育成するとともに、環境の変化に応じて、柔軟に組織・体制の整備や設備投資を行うなど、経営資源を適切に投入することで、安全最優先の事業運営基盤の維持・向上を図っている。

- ◆資源の充実
  - 人材育成
  - 体制整備

安全性向上に  
関する活動の  
実施

安全性向上のために国の定める規制基準の枠組みに確実に対応することに留まらず、世界最高水準の安全性実現に向け、事故の発生、進展、拡大を防止する対策の充実、および万が一に備える事故時対応能力の向上に向けた諸施策を自主的・継続的に実施している。

- ◆稼動プラントの自主的安全性向上対策の推進
- ◆事故時対応能力向上のための防災訓練の実施

リスクマネジメントをはじめとする  
マネジメントシステム  
の確立・改善

安全性向上のために必要となる運用管理や有効性の評価システムに加え、オーバーサイトの仕組みや国内外の情報を活用することで、マネジメントシステムを継続的に改善している。

- ◆リスクマネジメントシステムの継続的な改善
- ◆リスク管理・評価等のツールの整備・改善
- ◆その他マネジメントシステムの確立・改善
- ◆客観的評価・外部知見等の活用

コミュニケーション  
の充実等

社会の皆さまとのコミュニケーション活動を通じて、原子力に係るリスク認識等を共有し、頂いたご意見を事業運営に反映することで、安全性向上を図っている。地域に根ざした事業運営を行うことで、立地地域をはじめとした社会の皆さまとの信頼関係の維持・向上を行っている。

- ◆リスクコミュニケーションの推進



用語	説明
RIDM	Risk Informed Decision Makingの略称で、リスク情報を活用した意思決定。
安全性向上評価	事業者において、原子力発電所の安全性について評価し、自主的な安全性向上に向けた取り組みを、継続的に講じていくことを目的としたもの。
NRRC	Nuclear Risk Research Centerの略称で、電力中央研究所原子力リスク研究センター。
MO	Management Observationの略称で、原子力事業本部および発電所の管理職による発電所の現場観察。
オーバーサイト	発電所の安全に係る取組状況を観察・評価し、改善につなげる取組み。
JANSI	Japan Nuclear Safety Instituteの略称で、原子力安全推進協会。
ストレステスト	原子力発電所が想定を超える地震や津波等に襲われた場合を想定し、その大きさを徐々に大きくしていった時に、安全上重要な施設や機器などがどの程度まで耐えられるのかを調べたうえで、発電所の総合的な安全裕度を評価するもの。
PI	Performance Indicatorの略称で、発電所のパフォーマンスを定量的に管理する指標。
PRA	Probabilistic Risk Assessmentの略。確率論的リスク評価。原子力施設等で発生する可能性のある事象が進展し炉心損傷等の事故に至るシナリオを、体系的な方法で網羅的に展開し、炉心損傷等の確率などを定量的に評価する手法。
未然防止処置	国内外のトラブルなどリスク情報について入次第、各所管箇所が予防処置として当社のリスクマネジメントに反映するかどうかの検討を行うもの。
リスクコミュニケーション	原子力に係るリスク認識等を共有し、頂いたご意見を事業運営に反映する取組み。
WANO	World Association of Nuclear Operatorsの略称で、世界原子力発電事業者協会。

# 原子力部門 安全文化評価の改善状況について

2022年12月7日

関西電力株式会社

# 安全文化醸成活動の枠組みと評価視点の改善について

○当社は、美浜3号機事故の再発防止対策への取り組みを風化させることなく、継続していくために、評価項目（14視点）を設けて安全文化評価を実施してきた。

○より良い安全文化評価を目指すため、これまでの考え方を継続しつつ、世界標準の10特性を用いた評価へ改善する。なお、引き続き、必要に応じて改善、最適化を図ることとする。

## 「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」

### 安全文化の醸成と評価視点の再構築に関する取組方針

- (1) 安全文化の再構築を進める
- (2) 安全文化の醸成と再構築の意識を醸成し示す
- (3) 原子力規制庁の特性を十分認識し、リスク領域への取組活動を継続し示す
- (4) 地元をはじめ関係者の皆さまとのコミュニケーションを一層推進し、信頼の向上に努めます
- (5) 安全への取組活動を積極的に示し示す

### 評価と改善に関する取組

風評の  
管理

支援・協力





# 参考：安全文化評価における評価視点等の改善について

## 変更前

### 安全文化の3本柱と評価の視点（14視点）

- ①安全（プラント安全、労働安全、社会の信頼）を何よりも優先するというプライオリティが明確か。
- ②組織の権限と責任が明確で適切であるか。
- ③現場第一線はトップの考え、価値観を理解し、実践しているか。（協力会社を含む）
- ④資源投入、資源配分は適切か。
- ⑤経営層、原子力事業本部、発電所幹部は、不具合事象、懸念事項を含めて、現場第一線の状況をしっかり把握しているか。
- ⑥組織内、組織間の連携は良好か。（原子力事業本部－発電所、発電所内）
- ⑦協力会社・外部関係組織との意思疎通・連携が十分図られているか。
- ⑧外部へのタイムリーかつわかりやすい情報提供を行い、外部からの声に耳を傾けているか。
- ⑨安全を確保するために必要な技術力を維持・向上しているか。（協力会社を含む）
- ⑩ルールは遵守されているか。業務改善のためのルール見直しに努めているか。
- ⑪トラブルや不具合、海外情報を踏まえた主体的な問題解決、改善活動を実施しているか。
- ⑫外部意見の積極的聴取、業務への反映を行っているか。
- ⑬現状への問いかけ・リスク評価や組織全体のリスク感知能力を通じて、更なる安全性、信頼性の向上および労災の未然防止に努めているか。
- ⑭原子力事業本部、発電所の社員のモチベーションが維持、向上されているか。

## 変更後

### 安全文化評価※の10特性（43属性）

- 安全に関する責任**（業務の理解と遵守・当事者意識・協働）
- 常に問いかける姿勢**（リスクの認識・自己満足の回避・不明確なものへの問題視・想定の問題視）
- コミュニケーション**（情報の自由な流れ・透明性・決定の根拠・期待・職場間のコミュニケーション）
- リーダーシップ**（安全に関する戦略的関与・管理者の判断と行動・職員による参画・資源・現場への影響力・報奨と処罰・変更管理・権限、役割および責任）
- 意思決定**（体系的な取組・安全を考慮した判断・決定における明確な責任・予期しない状況への準備）
- 尊重しあう職場環境**（職員への尊重・意見の尊重・信頼の育成・衝突の解決・施設を大事にする意識）
- 継続的学習**（自己評価・独立評価・経験からの学習・訓練・リーダーシップの開発・ベンチマーキング）
- 問題の把握と解決**（特定・評価・解決・傾向）
- 作業プロセス**（作業管理・安全裕度・文書化）
- 問題提起できる環境**（問題提起できる制度・問題提起の代替手段）

※：美浜3号機事故の反省を踏まえて策定した考えを用いて評価

原子力安全検証委員からいただいた  
ご意見を踏まえた取組状況について

2022年12月7日

関西電力株式会社

# 原子力安全検証委員からいただいたご意見を踏まえた取組状況

1

➤ 第24回原子力安全検証委員会（2022年6月1日）までに頂いたご意見のうち、「意見A」に整理している以下の項目について、その取組状況について取りまとめを実施。

<参考>

意見A：ご意見を踏まえ新たに取組方針を策定するとともに、取組状況を検証委員会でフォローしていくもの

意見B：ご意見に対する当社の考えや取組状況について、委員に対して説明したうえで、意見Aが意見Cを判断するもの

意見C：ご意見の趣旨に沿って既に取り組んでいるが、社内で共有し、当社活動を進めるうえで留意するもの

ご意見の概要	検討段階※	実施段階
ロードマップ報告書の改善		○
「ありがたい姿」とのギャップを踏まえた広義の議論	○	

↑ 2

↑ 3

※「検討段階」のご意見については、次回以降の検証委員会において、引き続きフォローしていく。

# 原子力安全検証委員からいただいたご意見を踏まえた取組状況

## ◆ロードマップ報告書の改善

ご意見	
1	この報告書の目的は、さらに安全を高めていくこと、加えて、ステークホルダーと関西電力との情報共有を図ること。もう少し幅広い層に情報が伝わるようにすべきであり、専門用語、英語略称も含め、 <u>分かりにくいことを分かり易く説明する技量・スキルをさらに磨いていく必要がある</u> 。【遠藤富美夫委員】第23回検証委員会(2021.12.1)
2	40年超運転プラントを安全性確保に尽力のうえ再稼動したことは、原子力業界や原子力政策全体において非常に重要なこと。報告書では、ステークホルダーの関心事に対応したと記載されているが、対応結果だけでなく、 <u>ステークホルダーが「通常プラントの再稼動と異なり、何を不安に思い、何に関心を持っていたか」を情報として集積し、共有することが重要</u> 。【遠藤典子委員】第23回検証委員会(2021.12.1)
3	報告書を誰に向けて書いているのかについて改めて議論する必要がある。その対象が一般の方なのか、それとも専門家なのかによって、 <u>読み手を意識した資料作りを心掛けて欲しい</u> 。【荒木委員】第23回検証委員会(2021.12.1)
4	報告書の伝え方が本当にこれで最善なのかについては議論の余地がある。各種取組みの結果を伝えることが大切で、それはできているように感じるが、 <u>全般的に読み手の安心に繋がる報告書になっているかについては、まだ改善の余地がある</u> 。【山口副委員長】第23回検証委員会(2021.12.1)
5	RCPのシャットダウンシールについては、一般の方には非常に分かりづらい。例えば、規制基準ではこれまで求められており、さらに安全になるように自主的に取り組んでいるということを、 <u>一般の方にも伝わるような資料にすることが必要</u> 。【渡邊委員長】第23回検証委員会(2021.12.1)
6	ロードマップ報告書の記載は良くなっている。今後の方向性として、 <u>色遣いや文字のフォント等、ユニバーサルデザインについても考慮し、誰でも読みやすい資料作りをされたい</u> どうか。【荒木委員】第24回検証委員会(2022.6.1)

## 取組方針・取組状況

### 【取組方針】

弊社は、原子力の安全性向上の取組みについて、ロードマップ報告書にとりまとめ、半期ごとにホームページにて公表してまいりました。原子力に関するステークホルダーの不安、関心事については、定期的に関係部署で共有しており、これを踏まえ、報告書作成に反映しております。

今回いただきましたご意見を踏まえ、当社の取組みが広く社会のみならず「伝わる」ことをより一層意識し、簡潔・平易な表現で読みやすさを向上するとともに、安全性向上に向けた取組みのポイントについては、読み手の目線を意識しながら、わかりやすくかつ読み手の安心につながるよう、広報部門とも密に連携し、改善を図ってまいります。

具体的には、簡潔・平易な表現として、専門用語の使用への配慮や情報の階層化を図ります。取組みのポイントについては、目的、安全性向上のために注力したポイント、結果としての安全上の影響等が伝わるような原稿作成に努めてまいります。

本日、ご確認いただきたい箇所

### 【取組状況】

ロードマップ報告書を、より幅広い層に読んでいただくことを意識し、広報部門とも連携して改善を進め、2021年度下期のロードマップ報告書作成において反映した対策を、

2022年度上期の報告書作成において、定着させました。

具体的には、一般のお客さまの興味関心や安心に繋がるという観点を意識したトピックス選定や、簡潔・平易な表現を用いて読みやすさを向上させると共に、その取組みを実施した結果、安全性等どのように影響したかが伝わるよう、原稿フォーマットに改善要素を定型化しました。

さらに、ユニバーサルデザインについては、識別しやすいフォントを使用するとともに、色以外の情報を組み合わせた表現や、色づかいにおいて、カラーバリエーションに配慮しました。

今後、当社の取組みが広く社会のみならず「伝わる」こと、読み手の安心につながるという観点から、引き続き改善に努めてまいります。



◆「ありがたい姿」とのギャップを踏まえた広義の議論

第23回検証委員会(2021.12.1)

	取組方針・取組状況
<p>ご意見</p> <p>6</p> <p>美浜3号機事故の再発防止対策は一定の定着が見られることから、<b>個別各論の議論にとどまることなく</b>、会社全体としてどのような効果があり、どのような文化が定着しているのか、<b>ありがたい姿</b>に対してどのレベルまで到達しているのか、ギャップをどのように改善するかを、<b>より広義にとらえて議論していく段階に</b>来たのではないかと。 【山口副委員長】 第23回検証委員会(2021.12.1)</p>	<p>【取組方針】 美浜3号機事故再発防止対策につきましては、<b>風化することなく</b>、各所で改善しながら自律的に取組まれていることを確認しておりますが、先生のご意見の通り、一定の定着が見られることから、<b>個別各論の議論にとどまることなく</b>、より広義にとらえて議論していただくと考えております。</p> <p>美浜3号機事故再発防止対策につきましては、2016年度に共通する「安全最優先」の理念の下に取り組んでいた自主的安全性向上ロードマップとの関係を整理し、<b>現在は、美浜3号機事故再発防止対策も関西電力の自主的・継続的な安全性向上の取り組みの一部として</b>いることから、この全体像を議論することが<b>広義な観点から美浜3号機事故再発防止対策を俯瞰すること</b>になると考えます。</p> <p>具体的には、<b>自主的・継続的な安全性向上の取り組みの基盤となる美浜3号機事故再発防止対策を含む取り組みを実施した結果と、5本の柱に設定している「ありがたい姿」とのギャップの把握方法、及び、それを埋める観点を考察してまいりたいと</b>考えております。</p> <p>なお、<b>個別の美浜3号機事故再発防止対策についても、本検証委員会の設置の趣旨を踏まえ、今後も引き続き対策の実施状況について議論頂く点を絞ったうえでご報告させて頂きたいと</b>考えております。</p>
<p>7</p> <p>発生したトラブル等への個別の対策については、かなり細かく対応・報告しているが、<b>より広義の議論をすることが必要</b>。また、<b>発生した問題についてもう少し議論すべき点を絞ったほうがよい</b>。【渡邊委員長】 第23回検証委員会(2021.12.1)</p>	<p>本日、ご確認いただきたい箇所</p> <p>【取組状況】 5本の柱に対して設定している「ありがたい姿」に対し、<b>更なる向上のために必要な取り組みを整理するとともに、その内容を踏まえ、2022年度の活動計画に重点取組みとして反映しました。</b> <b>本活動計画について、2022年度上期の実績を取りまとめ、評価を行いました。</b></p> <p>【所管部門：原子力事業本部】</p>